

【今号のトピックス】

以下のリンクをクリックすると各記事のトップに移動します。

[【河套香港青年イノベーションハブ始動、第一弾のテクノロジー企業 10 社が入居】](#)

[【「世界の工場」東莞、業界の枠を超えた取り組みで新年の新たな道を模索】](#)

[【世界有数のベイエリア、急速に台頭中～全人代、政協会議における「大湾区」】](#)

【河套香港青年イノベーションハブ始動、第一弾のテクノロジー企業 10 社が入居】



2026 年 3 月 2 日、「河套香港青年イノベーションハブ」（以下「青年イノベーションハブ」）のキックオフセレモニーが、香港科学園深圳分園で開催されました。河套深圳・香港科学技術革新協力区建設発展事務署からの委託を受け香港科学園が運営するこの青年イノベーションハブは、深圳・香港の両地の科学・教育の人材により広い発展の場を提供し、香港・深圳の青年が協力して発展するための足がかりとなることを目指しています。セレモニー当日には、第一弾の 10 社の科学技術イノベーション企業が正式に入居契約を結びました。

関係者によりますと、青年イノベーションハブには 50 室以上の個室オフィスが整備されているほか、共有ワークスペース、乾湿実験室、各種付帯施設も提供されています。より若年層の起業グループに対する誘致に重点を置き、入居するグループの海外事業展開を支援するとともに、ターゲットを絞った人材育成サポートも行います。

セレモニーにおいて、香港特区政府イノベーション科学技術及び工業局の孫東局長は「香港特区政府は、これまで精力的に香港のイノベーション・科学技術の発展を全力で推進してきており、現在、深圳市政府及び中国本土の関連機関と、人材の流れ、物流、資金の流れ、データの流れなどの越境流動に関する具体的な実施計画について、積極的に検討を進めています」と述べました。青年イノベーションハブの運営開始に伴い、香港科学園深圳分園は、より充実したスペース及びリソースを有することになり、より多くの優秀なイノベーションテクノロジー企業や若手起業家にサービスを提供できるようになるとの見解を示しました。

先日、香港特区政府は 2026－2027 年度の財政予算案を発表しました。その中で、河套香港園区の土地開発加速化、インフラ整備、ベンチャーキャピタルファンド設立などのため、100 億香港ドルを追加出資することが提案されました。孫東局長は「特区政府は今後も一刻を争うという精神で『建設と入居の同時進行』や官民連携などの方式を採用し、香港園区の開発を加速させていきます」と語りました。

イベントでは、哲想信息技術、元霖深科技、華実未来科技、緑適科技など 10 社が協力プロジェクトの契約を締結し、正式入居を約束しました。香港科技园会社の CEO である黄家裕氏は「今回入居する企業は、人工知能、ライフサイエンス、データ、先端製造など、香港が重点的に発展させている分野に集中しています」と説明しました。

今回入居する 10 社のうち、7 社は香港に既に会社を設立しています。統計によりますと、香港科学園深圳分園が 2023 年 9 月に正式に始動して運営開始から

2年半で累計 80 社以上の深圳・香港両地域の企業が入居し、300 人以上の研究開発者が集まっています。また、香港と深圳の両地域に拠点を設立した「1+1」モデル企業の割合が全体の 80%以上を占めています。

深圳市政協副主席・福田区委員会書記兼河套發展署党組書記である黄偉氏は「多くの中国本土の大手科学技術企業は、国際事業の展開のため香港に法人を設立しています。また、多くの深圳企業は香港での事業展開と同時に研究開発活動を推進したいと考えています。このことから「1+1」産業発展と科学技術イノベーションの連携モデルが、深圳・香港の両地で既に広く普及していることが分かります」と述べました。

【「世界の工場」東莞、業界の枠を超えた取り組みで新年の新たな道を模索】



2026 年の新春「世界の工場」として知られる東莞では、好調な受注と活発な生産が続くだけでなく、多くの分野で業界の枠を超えた融合の動きが活発化しています。

東莞市南城區の広量ホールディングスグループは、伝統的な旧正月明けの仕事始めの儀式である爆竹や獅子舞とは異なり、ドローンで天から紅包（お年玉）の「雨」を降らせ、新たな年のスタートを切りました。。このテクノロジー色あふれる儀式は、企業と従業員の新年への期待と飛躍への決意を象徴しています。

地理測量会社からスタートした同社は「ニーズのラストワンマイル」という課題の解決に着目し、自社が持つデータ資産の強みを活かし「人工知能（AI）プラス」と「低空経済プラス」という二つの新たな事業分野を開拓しました。劉賢慶副総裁は「今年は政府があらゆる応用シーンの商業化を強力に推進しており、まさに当社が本領を発揮する時です」と語りました。仕事始めには 500 人を超える技術者全員が職場に復帰し、一人当たり平均 3 件のプロジェクトを抱えているとのことでした。

東莞市には 22 万社以上の工業企業が集積し、そのうち一定規模以上工業企業は 14,000 社に上ります。当地には電子情報産業クラスターやハイエンド設備製造産業クラスターだけでなく、特定の分野に特化した「隠れたチャンピオン企業」も数多く存在します。自らの生産能力を統合した異業種への挑戦が、供給側に新たな変革の波をもたらそうとしています。

東莞信易電熱機械有限公司の工場内では、射出成形機やダイカストマシンなどの設備がフル稼働し、自動化生産ラインが整然と稼働しています。このプラスチック周辺機器メーカーは受注が好調で、旧暦正月七日（2 月 23 日）の仕事始めから、納期に間に合わせるため全力で生産に取り組んでいます。

「電気自動車（EV）や AI サーバーの冷却システム向けの関連新設備の展開に伴い、今年はさらなる成長が見込まれています。今後は、低空経済や人型ロボットの分野にも参入し、新たな消費ニーズに対応した事業をさらに開拓していく計画です」と、東莞信易の呉峻睿総経理は語りました。

世界市場の変動や需要の縮小の影響を受けたものの、2025 年の東莞の製造業は力強い回復力を示しました。年間の地域総生産（GRP）は 1.2 兆元の大台を突

破し、一定規模以上工業生産額は**2.6兆元**を超えました。背景には、多くの製造企業の変革の成果があります。

早朝、新鉑科技（東莞）有限公司の責任者である田修波氏は顧客からの電話を受けました。旧暦正月六日（2月22日）から、多くの博士課程指導教員、ポスドク、博士号取得者からなる同社のチームは、待ちきれない様子で実験室に集まり、企業から提示された生産上の課題の解決に没頭しています。

新鉑科技はプラズマ表面技術のソリューションを提供しており、東莞の巨大な製造業セクターがその主なサービス対象となっています。田氏は「自分が忙しいということは、それだけ多くの企業、とりわけ中小企業が革新的な応用や画期的な変革によって新たなビジネスチャンスを掴もうと力を入れ始めている証拠です」と語りました。

自らのイノベーションでさらなる発展のチャンスを掴み続けているのが東莞市協順電子科技有限公司です。旧暦正月七日（2月23日）の仕事始め当日、同社はなんと**1,000萬元**近くに上る海外からの受注を獲得し、生産スケジュールは早くも**6月**までびっしりと埋まっています。「**2025年**の当社の業績は過去**3年**間で最高を記録しました。今年はこの好調なスタートを維持し、医療や低空経済といった新分野での成長が見込まれています」と、同社の国内事業担当総監である朱雲風氏は語りました。

現在、各業界のアップデートとイノベーションの速度は加速しており、企業が、新たな消費者のニーズに応じてより高性能なコネクタを絶えず開発していくことが鍵となり、例えば、低空経済向け製品では、軽量で防水性があり、かつ安定性の高いコネクタが要求されます。「すべてのエンジニアが既に受注が決まっているプロジェクトに携わっているわけではありません。新技術が新たなコンセプトをもたらす中で、当社は技術的な蓄積をしっかりと行っています」と朱氏は見えています。

このように、将来を見据えて発展を模索し、業界の枠を超えて革新に挑戦する東莞の企業は、国内外の多くの顧客から高い評価を得ています。**2025年**、東

莞の對外貿易輸出入總額は 1 兆 5,800 億元に達し、過去最高額を更新、前年比 13.8%増となりました。2025 年末までに、東莞は 21 ヶ月連続でプラス成長を維持し、經濟の基盤を安定させただけでなく、規模と質の両面での向上を実現しました。

2026 年春節（旧正月）期間中、香港國際空港の東莞エアポートセンターでは航空貨物の積み込み作業が休みなく行われ、合計 42 の輸出入便が運航され、約 800 トン、1 億 5,000 万人民币元以上相当の貨物が取り扱われました。東莞港産業投資有限公司の莫梅心副總經理によると、空輸サービスへの要求が比較的高いハイエンド製造業や越境 EC の占める割合が著しく上昇しており、現在、エアポートセンターを通じて 60 以上の国・地域と接続しています。特に欧州や「一带一路」協力国を目的地とする割合が高まっているとのこと。

「2026 年、エアポートセンターの貨物量と取扱額は引き続き高い成長を維持しており、越境物流サービスの能力は持続的に向上し、東莞製品の海外展開における重要なルートとなるでしょう」と同氏は述べました。エアポートセンターでは、インド、スペイン、ベルギーなどへの専用チャーター便の増便を計画していると同時に、長期的計画として、埠頭整備工事の進捗率は 90%超となっており、2027 年の全面稼働を目指しています。

供給側の生産現場では業界の枠を超えて産業の壁を打ち破り、消費側では複合的なニーズを見据えて新たな機会を創出する——東莞の製造業各社は、新年において大きな自信と期待を寄せています。

【世界有数のベイエリア、急速に台頭中～全人代、政協会議における「大湾区」】



「今日の大湾区は、三地域が道路で結ばれ、都市が融合し、心が通じ合っており、国際的な一流ベイエリアと世界レベルの都市群が急速に発展を遂げつつあります」全国政治協商会議第 14 回第四次会議（「政協会議」）の記者会見で、大湾区の融合発展に関するメディアの質問に対し、大会スポークスマンの劉結一氏はこのように述べました。

大湾区の建設は、習近平総書記自らが構想、配置、推進した重要な国家戦略です。「第 14 次五ヶ年計画」期間中、大湾区の建設はさらに深化し、2025 年には域内総生産が 15 兆元を突破すると見込まれています。高品質発展に向けた歩みは力強く、その成果も実り多いものとなっています。

特筆すべきは、広東省、香港、マカオの三地域が初めて共同で第 15 回全国運動会を開催し「一事三地、一策三地、一規三地」という革新的な取り組みを打ち出し、制度の優位性を示し、団結の力を結集し、大湾区の特色を発揮したスポーツの祭典を繰り広げたことです。今回の大会は、スポーツ強国建設の新たな

な高み、大湾区の融合発展の新たな成果を示すとともに、大湾区がより広い分野、より深いレベルでの融合発展を進める新たな章を開くものでした。

「ハードソフトの連携」による質と効率の向上は、融合発展の基盤をより強固なものとししました。「ハード連携」は網の目のように密となり「港車北上」「澳車北上」に続き「粵車南下」政策が実施され、大湾区のクロスボーダー交通は双方向直通の新たな時代を迎え「1 時間生活圏」は構想から現実へと加速しています。「ソフト連携」も継続的に深化し、大湾区基準、・大湾区認証、香港・マカオ薬械通、クロスボーダー金融商品などの実施が進み、198 項目の高頻度行政サービスがクロスボーダーで手続き可能となり、三地域の資源・要素の流動が加速しています。「心の連携」も一層緊密になっており、香港・マカオの青年イノベーション起業拠点には7,000 以上の香港、マカオのプロジェクトが集まり「高齢者医療券大湾区試行計画」では大湾区内陸 9 都市全域カバーを実現、「香港・マカオ薬械通」指定医療機関リストも拡大を続けています。大湾区は「一国」の根本を堅持しつつ「二制度」の利点を最大限活用することで、三地域の強みをますます効果的に促進し「大湾区の人々」の距離を一層縮めています。

科学技術イノベーションは時代の最先端を走り、質の高い発展のエンジンを活性化させています。広深港（広州・深圳・香港）と広珠澳（広州・珠海・マカオ）の 2 つの科学技術イノベーション回廊は、地域内で最も活発なイノベーション要素を結びつけ、深港穗（深圳・香港・広州）クラスターのイノベーション指数は世界一に躍進し、珠澳（珠海・マカオ）クラスターは 2 年連続で世界トップ 100 にランクインしました。これらの輝かしい成果は、大湾区の国際科学技術イノベーションセンター建設が着実に進められ、イノベーションの原動力が加速的に集積していることを示しています。「一点両地」*という新たな位置づけに基づき、基礎研究の強化を継続し、重要協力プラットフォームを強固にし、要素移動の障害を解消することで、大湾区建設に絶え間ない強力な原動力がもたらされます。

*「一点両地」：大湾区を「新たな発展における戦略的支点」「質の高い発展のモデル地域」「中国式現代化をリードする地域」と位置づける方針。

心を一つに歩み、共に未来へ向かう。全国人民代表大会（全人代）及び全国政治協商会議（政協会議）（両者を称して「两会」）では、代表や委員が積極的に意見や提案を行っています。「大湾区複合港湾」モデルの構築を目指し、香港の国際海運センターとしての地位を強化することから、改革とイノベーションの視点からマカオの法律法規を協力区において転換、適用を模索し、制度的障害を取り除くことの提案、さらには高齢者介護サービスの基準や医療条件の認証等の分野における地域間協調メカニズムについて、政策の相互連携を実現すべきだとの指摘まで、一つ一つの知見が、広東・香港・マカオの協力を深化させ、香港・マカオの国家発展の大局によりよく溶け込み、貢献できるよう、知恵と力が注がれています。

大湾区の建設は、広東省にとって重大な責任であると同時に、またとない発展のチャンスでもあります。新たなスタートラインに立ち「一国二制度」の大局に貢献し、「一点両地」という新たな位置づけを軸に、主力軍及び牽引役としての役割を十分に発揮し、香港・マカオと力を合わせ、一步一步着実に歩みを進め、三地域の融合発展の新たな章を力強く書き綴っていくことにより、世界レベルの大湾区、最も発展したバイエリアへの道を力強く歩むことになるでしょう。

【参考資料】

- ・ [河套香港青年イノベーションハブ始動、第一弾のテクノロジー企業 10 社が入居](#)
- ・ [「世界の工場」東莞、業界の枠を超えた取り組みで新年の新たな道を模索](#)
- ・ [世界有数のバイエリア、急速に台頭中～全人代、政協会議における「大湾区」](#)

青葉【WeChat 公式】のフォローをご希望の方は、
右記の QR コードから登録をよろしくお願いいたします。
(WeChat アプリにて、QR コードをスキャンしてください。)

[大湾区ニュースレター特集ページへのリンク](#)

また「大湾区情報」だけでなく、中国、香港のニュースや最新制度
情報も WeChat の公式アカウントに掲載しています。



=====

[最新ニュースページ](#)で過去に発行したニュースレター、及び香港・
中国本土最新ニュースをご覧になれます。

ホームページと共に、SNS でも随時情報を発信してまいります
ので、是非ともフォロー、いいね！をお願いいたします。



質問等お問合せ先

青葉監査法人・青葉ビジネスコンサルティング・青葉法律事務所
担当:

香港：新井 茂 <s.arai@aoba.com.hk>

広州：Monica Tian/田 倩 <monica.tian@aoba.com.hk>

北京：Susan Zhao/趙 素艷 <susan.zhao@aoba.com.hk>

=====